

<p>教育学・心理学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 教師の変容と省察を促す研修会に関する研究</p> <p>□ 自己肯定感を高め、互いのよさや個性を認め尊重し合う子どもの育成に関する研究 -対話型鑑賞（朝鑑賞）及び表現を通して-</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教師教育・学校経営</li> <li>■ 授業改善</li> <li>■ 教師・子どもの変容</li> <li>■ 図画工作・美術</li> <li>■ 対話型鑑賞（朝鑑賞）、アート・カード</li> </ul>	<p>【教師の変容と省察を促す教師教育に関する研究】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現の上で不可欠な要因があります。それは、教師が一人ひとりの子どもの学びの姿をしっかりとらえることができなければ、はじまりません。教師が一人ひとりの子どもの学びの姿から、子どもの内面をもしっかりとらえる力が不可欠なのです。教師は、子どもの学びの過程をとらえ、「見ている」つもりでも、本当に「見えている」のでしょうか。子どものことが分かったつもりでも、本当に分かっているのでしょうか。自分自身の見方や感じ方を一人でとらえ直すことはとても難しいことです。そこで、私たち教師や大人が学び合えることは何なのか、そんな教師・大人自身に問題の焦点を当てた研修会をこれまで実践し、2019年読売教育賞「カリキュラム・学校づくり部門」において「優秀賞」を受賞し、高く評価していただきました。</p> <p>研修会に参加した教師が、自分の見方や考え方、感じ方が決して全てではないという当たり前のことにも改めて気づくと同時に謙虚さが培われました。これは、教師にとって子どもを共感的にとらえたり、学習活動を不断に見直し、改善し、子どもと共に創造したりする上でとても重要な要因となります。</p> <p>生涯に渡って学び続け、変容し省察しやすい研修会や教師教育の在り方について多くの成果を得ています。これは、学校教育だけに限らず、多様な職種においても通じるものだと考えています。</p>
	<p>【自己肯定感を高め、互いのよさや個性を認め尊重し合う子どもの育成に関する研究 -対話型鑑賞（朝鑑賞）及び表現を通して-】</p> <p>子どもの自己肯定感のみならず、学力も高めやすいとおきの方法があります。それは、図画工作科・美術科を活用します。一例として、朝学習の時間帯に「対話型鑑賞」を行います。すなわち「朝鑑賞」を行います。新たな学習活動をするには時数確保が難しい状況ですが、ほとんどの小学校には「朝読書」「朝学習」など、朝学習前に15分程度の学習活動を行う時間があります。その時間を活用し、月1～2回程度、学級担任が芸術作品を用いて朝鑑賞を行うのです。</p> <p>対話型鑑賞とは1980年代半ばに、アメリカのニューヨーク近代美術館で子ども向けに開発された美術の鑑賞法の一つです。作品の意味や技法、作者に関することなど、美術の知識をもとにして作品と向かい合うのではなく、作品に対する自分の見方、感じ方や考え方を他者と交流しながら、その対話を通して鑑賞を楽しみます。</p> <p>朝鑑賞の最大の特徴は、学力の優劣が大きく関係せず、誰もが平等に参加でき、思考力や表現力を高めていくことができることにあります。また、先生は「教えない」人になり、そのかわり「問い」を投げかけ、つなげていくファシリテーターとなります。したがって、朝鑑賞中は、子どもは教師から知識を与えられる側、知識を試される側という受け身の存在ではなく、問いに対して主体的に考え、友だちの考えも取り入れながら、他者の考えも取り入れながら、自分で考えた「答え」を組み立てていく能動的な存在となります。「この作品を見てください。何が見えますか？」「時間は朝昼晩のいつ頃だと思いますか？」「季節はいつ頃だと思いますか？」「どんな声や音が聞こえますか？」「どんな題名をつけますか？」「どこからそう思いましたか？」等々、様々な投げかけからはじまります。</p> <p>朝鑑賞中、子どもたちは「みる→考える→話す→聴く」を繰り返していきます。そこには唯一の正解もなければ不正解もありません。子どもたちは朝鑑賞を通じて、新しい意味や価値を創造していきます。</p> <p>この様な活動を繰り返す中で、同じ作品を見ている、多様な見方や感じ方があり、互いのよさや個性を發揮しやすく、同時に認めやすい環境もつくられていきます。それは、朝鑑賞後の授業においても、意欲的に発言する子どもが増えると同時に、お互いの話をしっかりと聞く姿勢も培われていきます。作品を見て、考えて、確かにそうだと肯定する、受け入れるといった活動を繰り返していく中で、子どもたちは、自他の多様な見方や感じ方、考え方を朝鑑賞を通して培っていきやすいことや教師の変容も明らかになっています。</p> <p>是非、試してみませんか。</p>
<p>青木 善治 Yoshiharu Aoki</p>	<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●所属学会</li> <li>・大学美術教育学会</li> <li>・美術科教育学会</li> <li>・日本美術教育学会</li> <li>・日本教育実践学会</li> <li>●委員</li> <li>・滋賀次世代文化芸術センター理事</li> <li>・滋賀県美術教育研究会顧問</li> </ul>
<p>教職大学院 教授</p>	<p>【主な著書・論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が「教えない人」になれる時間 15分間の「朝鑑賞」が子どもの自己肯定感を育む（東洋館出版・2024年）</li> <li>・子どもが「生きる力」を育む造形活動に基づく教育実践研究（2017）（博士論文）</li> <li>・教師の変容と省察を促す研修の在り方に関する一考察-立体作品審査・鑑賞研修会における事例から-（2024）</li> </ul>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門：学校教育学</li> <li>・新潟県公立小学校 教諭</li> <li>・上越教育大学大学院学校教育研究科修士課程修了修士（教育学）1999年</li> <li>・上越教育大学附属小学校 公立小学校 教頭</li> <li>・新潟県教育庁文化行政課（新潟県立近代美術館）</li> <li>・兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 博士（学校教育学）2017年（論文提出による）</li> <li>・南魚沼市立上関小学校校長</li> <li>・三条市立栄北小学校 校長</li> <li>・滋賀大学教職大学院 教授</li> <li>・兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 教授（兼職）</li> </ul>	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の管理職や自治体リーダーに必要とされる資質・能力や既成の価値観や概念にとらわれにくい理念に関するセミナー及びワークショップを行います。</li> <li>・幼・保・小・中・高等学校、特別支援学校における子どもの自己肯定感を培いやすい、美術教育や対話型鑑賞、アート・カードによる鑑賞教育や「造形遊び」に関する研究や研修を支援します。</li> <li>・教師の変容と省察を促す職員研修に関する共同研究を希望します。</li> </ul>



対話型鑑賞（朝鑑賞）の様子